

意見交換会の参加者

岐阜大学より、工学部 櫻田修教授、
応用生物科学部 岩間智徳准教授、
教育推進・学生支援機構 長谷川
典彦特任教授、施設環境部から
青木浩史施設環境部長ほか7名、
ISO14001学生委員会から3名

静岡大学より、財務施設部から
佐野博昭施設課副課長、堀籠利宏
施設課副課長

本学より、環境安全衛生管理室 村田
静昭室長ほか環境報告書2018
編集チームから学生を含めた11名

環境報告書のさらなる充実を目指して

2018年8月20日、岐阜大学、静岡大学、名古屋大学の3大学で環境報告書や環境活動を推進する立場の計25名が岐阜大学に集まり、意見交換を行いました。

本学では環境コミュニケーションの一環として、環境活動で優れた取組をされている大学や企業との意見交換を毎年行っています。お互いの環境報告書を読み合い意見を交換することで、本学の特徴や改善すべき点を認識し、環境問題への取組と環境報告書における記載内容についてさらなる充実を図る機会となっています。2017年度は岐阜大学との2大学で実施しましたが、2018年度は静岡大学にも参加いただき、初めての試みとして3大学合同で実施しました。

岐阜大学はISO14001(環境マネジメントシステム)の認証を附属病院を除く全学で取得しています。全学的な環境マネジメント体制を構築し、PDCAサイクルを回し

環境活動の継続的な改善に取り組むとともに環境意識向上のための教育や啓発活動についても取り組んでいます。静岡大学では、大学活動のあらゆる面において環境保全に努めるための具体的な行動計画として「グリーンキャンパス構築指針・行動計画2016-2021」および「エネルギー管理マニュアル」を策定しPDCAサイクルを構築して環境負荷低減・省エネルギーの推進に取り組んでいます。また、2017年度には環境省等が主催する環境コミュニケーション大賞の環境報告書部門において環境配慮促進法特定事業者賞を受賞しています。

2つの大学の環境報告書を読むことでたくさんのアイデアをいただきました。また、各大学の参加者から、本学の環境報告書の内容の充実につながる評価や改善提案をいただきました。

名古屋大学環境報告書2018についての主な意見

(1) 評価いただいた内容

- ・ SDGsのアイコンを掲載することにより、大学全体が広い視野で持続可能な社会の実現に向けて取り組んでいることが伝わってくる。
- ・ 研究を紹介する記事で、専門外の学生がインタビューしていることにより、一般の読者にも内容が理解しやすくなっている。また、教育・研究について教員だけでなく学生も執筆することにより、読者に親近感をもたせることができている。
- ・ 環境方針に関連する章ごとの扉ページがあり、各章のトピックスとして内容を分かりやすくまとめている。
- ・ 学生からの質問に回答する記事は、身近な環境問題について考えるきっかけになる。
- ・ 附属中学校での活動の記事もあり、大学全体の話題を取り上げていると感じる。
- ・ エネルギー使用量等の分析が詳細に記載されており、増減の要因が分かりやすかった。
- ・ 労働基準監督署からの是正勧告、麻葉等の管理、PCBによる土壤汚染など、マイナス面の情報を開示している。

(2) 改善提案を受けた内容

- ・ SDGsのアイコンは第1章、第2章だけではなく、第3章にも掲載してはどうか。
- ・ 環境報告書にダイバーシティ等に関する記事を掲載することは読者に違和感を与えかねないので、大学の社会的責任の立場から掲載していることをもっと明確に示してはどうか。
- ・ 省エネ改修整備の事例と光熱費削減の効果が示されているが、年度中に実施したすべての省エネ整備に対する光熱費削減の効果を示すことができると、さらに興味深いデータになるのではないかと。
- ・ 大学における災害時の体制について、環境リスクマネジメントの観点から記載できるとよい。



大学の環境活動などさまざまな視点での意見交換

環境報告書の評価に関する意見交換のほか、環境報告書の作成時の記事の収集や執筆に関する課題および大学全体での環境活動やその周知方法についても情報交換を行いました。学生同士では学生独自の環境活動や啓発活動など、教職員とは違った視点での意見も交わされました。

環境活動などに関する意見交換・情報交換

(1) 意見交換

- ・大学の環境マネジメント体制の構築について(本学では環境安全衛生管理体制とエネルギーマネジメント体制を構築しているが、それらを統合した環境マネジメント体制は構築できていない)
- ・環境報告書の周知方法について(学内においても環境報告書の認知度が低いことが課題である。本学では学内の食堂等で環境報告書を紹介するカードスタンドを設置するなど新たな周知方法の試みも行っている)

(2) 他大学の特徴的な環境活動

- ・岐阜大学では、環境目標を記載したカードを配り、そのカードに各個人での環境目標も記入して携行するよう学生教職員にお願いしている。
- ・静岡大学では、授業の休み時間に契約電力量を超過しそうであることを伝える放送をして超過予防をしている。

(3) 学生同士の意見交換

- ・学生に対して環境報告書や環境活動を紹介するには、教職員でなく学生から紹介した方が効果的ではないか。

これからの環境報告書が目指すもの

意見交換では本学の環境報告書作成に長年関わってきた村田環境安全衛生管理室長から「大学の最も重要な社会的責任は、優秀な人材を育てることである。その考えをベースに従来の大学の環境報告書からUSR(大学の社会的責任)の報告書を目指すべきではないか」と意見を述べる場面もありました。

どうしたらもっと親しみやすく大学の環境活動に役立てることのできる、より充実した内容の環境報告書になるのか。できあがった環境報告書をどのように発信すればより多くの方に読んでもらうことができるのか。この意見交換会全体を通じて環境報告書改善のヒントを得るだけでなく、そのような思いを共有することが



でき、大変有意義なものになりました。この意見交換会の成果を本学の今後の環境活動の発展に確実につなげていきたいと思っています。

学生からのコメント

今回私たちは初めて環境報告書の意見交換会に参加して、この報告書の扱う「環境」の幅広さに驚きました。そして環境というそもそもの漠然とした言葉の意味について考える機会となり、環境報告書の作成に関わることが、とても貴重な経験であると感じました。

また、同年代の学生と意見交換をして、その環境に対する意識の高さに感服させられました。岐阜大学の学生の皆さんは私たちとは異なる視点から環境に対しての取組を実施されていて、私たちに何ができるかということを考え直すきっかけになりました。そして、環境サークルとして抱える問題についての相談もでき、非常に有意義で楽しい時間になりました。今回の経験を生かして、これから私たちの活動の幅を広げていく糧になればと思います。



Song Of Earth
(環境報告書2018 編集チーム)
工学部2年 宮崎 宏紀 農学部2年 澤村 志門



第三者評価

本学の環境報告書の内容の充実を図るため、熊本大学で環境報告書の編集に携わる山口佳宏先生に、改善すべき点などコメントをいただきました。

熊本大学環境安全センター准教授の山口佳宏と申します。環境安全センターは、熊本大学の安全管理や環境管理を支援する組織であり、熊本大学環境報告書「えこあくと」の編集を行ってきました。貴学より、環境報告書の第三者評価の依頼があり、環境報告書を編集する者として、喜んで引き受けました。環境報告書は、基本的機能として外部機能と内部機能があります。この2つの視点から、意見させていただきます。

＜外部機能としての意見＞

環境報告書は、事業者と社会とのコミュニケーションツールとしての機能を持ちます。編集方針では、「読みやすく親しみのある報告書」として、特に高校生に興味をもってもらうことを表明していました。編集チームには学生が含まれており、さらに「学生の視点から」や引きつけるタイトルと顔写真などの写真の多さが伝えやすさを感じさせました。特に「学外からの評価」では、大学のお手本となるような活動を行い、その成果が受賞という形で認められたことから、貴学の環境配慮への取組の活発さを知ることができました。

今後検討してほしいことが2つあります。

1つは広義の環境配慮として社会的責任に関する活動が予告もなく表現されていることです。「環境報告書」として読み進めていると、急に男女共同参画に関する記事が現れて戸惑いました。「コアな環境配慮」と「広義の環境配慮」を分けるなど、環境報告書の構成を工夫された方がよいと思います。

もう1つは貴学の学生に向けた教育などの取組が限定的であるような表現しかないことです。例えば全学教育科目は1つしか紹介されていません。全学的および他の全学教育科目の環境に関する教育活動を知って、貴学

が学生に伝えたいメッセージを読み取りたいと思いました。

＜内部機能としての意見＞

環境報告書は、自らの環境配慮等の取組に関する見直しや、構成員に対する意識づけと行動促進としての機能を持ちます。最終ページでは評価チームが紹介されており、さらにホームページでは昨年の自己評価報告書を閲覧することができました。この評価チームにも学生が含まれていることが魅力的でした。また他大学との意見交換も行われており、環境報告書の質の向上について、積極的に取り組まれている様子を知ることができました。

今後検討してほしいことがあります。

貴学の構成員に対する意識づけや行動促進に関する表現が少ないと感じました。環境負荷データの増減を知ることができましたが、実際にどのような活動をして環境負荷を削減させたか、環境報告書において構成員に伝わりやすいように表現を工夫された方がよいと思います。(ご意見を受けて、P41に省エネ活動の内容を追記しました。)

貴学の第三者評価を行うことができ大変光栄です。大学を取り巻く環境は前途多難ですが、環境報告書が環境配慮活動だけでなく、SDGsの達成に向けた活動の推進に貢献できるツールになることを期待しております。



熊本大学
環境安全センター
准教授 山口 佳宏



えこあくと (eco-act) 表紙

熊本大学環境報告書「えこあくと」

報告書の名称「えこあくと (eco-act)」は、元学長が親しみやすい、読みやすい書名として付けたものです。高校生・大学生を含めた読者の方々とのコミュニケーションツールとして、読みやすく、内容の充実した報告書を目指しています。「えこあくと」は過去には環境省等が主催する環境コミュニケーション大賞の環境報告書部門「環境配慮促進法特定事業者賞」を3年連続受賞するなど、高い評価を受けています。

熊本大学 環境安全センター
<http://www.esc.kumamoto-u.ac.jp/>

熊本大学環境報告書「えこあくと」
https://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujuhou/jouhoukoukai/eco_act



1. はじめに

環境報告書の信頼性を高めるために、環境配慮促進法に基づく自己評価を実施しています。自己評価は「環境報告書に係る信頼性向上の手引き」※¹に準じて、「環境報告ガイドライン」※²の記載項目を示した評価表を用いて実施しました。2018年度版についても、学内構成員（教員2名、職員3名、学生2名）によって環境報告書評価チーム（P57参照）を構成し、評価を実施しました。※³

2. 評価結果

評価対象とした項目のうち、特に下記の点について評価・提案します。

- ・講義や学生目線での研究紹介などのさらなる充実が見られました。ステークホルダーを意識したまとめ方として、評価チームとしても高評価でした。
- ・ダイバーシティやSDGsなど昨今の主流のマネジメントの考え方、環境にまで踏み込んでいました。単なるエネルギー等の問題だけでなく、大学全体、キャンパスとしての持続可能性を踏まえたものと感じました。
- ・一方で、環境報告書の主旨を考えた場合、エネルギー、電気、水等の使用状況、年推移等の考察が不足する傾向が見られました。活動、取組の内容や成果、改善点等を考察するなど、もう少し掘り下げた議論、考察を行うべきと考えます。
- ・重要な環境ファクターである廃棄物や水資源等について、目標の設定や削減対策等の情報が少なく感じます。組織としての取組等、検討すべきと思います。
- ・環境会計コストについて、考察が述べられていません。予算等の配分が適切であるか、効率的か等を考えるためにも、蓄積されたデータからの考察、次年度への展開等の検討は行う段階にあるのではないのでしょうか。
- ・PRTRの報告に関して、本制度の主旨としての大気を含めた環境への排出量および廃棄物等としての移動量についての記載がありませんでした。
- ・キャンパスマスタープラン2016や鶴舞地区で行われているESCO事業などは2018年度の学内の活動に大きく反映されていることから、2018年度も説明があつていいのではないのでしょうか。

※1: 「環境報告書に係る信頼性向上の手引き(第2版)」
(環境省、2014年5月)

※2: 「環境報告ガイドライン(2012年版)」
(環境省、2012年4月)

※3: 下記Web ページで、自己評価に関する詳しい内容をご覧ください。 (2018年12月頃公開予定)

http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/e_rpt.html



評価チームのメンバー

3. 総括

「編集方針」にもあるように、「読みやすく親しみのある報告書」「総合大学らしさが伝わるもの」「幅広い環境活動を紹介」等に重きを置いて編集している点は、ここ数年来継続している方針であり、ステークホルダーとして、学生や高校生らも意識したまとめ方であり、評価チーム全体として高評価でした。そうした幅広いステークホルダーに向けた環境報告書ですが、やはり作成された報告書自体をどう読んでもらうか、どう活用するか、ということが環境コミュニケーションとしての大切なフェーズに入ってきたと強く感じます。広く目にとまる、手に取れるようにするための工夫として評価チームからは、昨年度に引き続き、「『環境報告書』というタイトルの変更、興味を引く副題」「部分読みする人も多いため、目次等の工夫」「学生からの視点、質疑の充実、特に身近な話題をクローズアップ」などの意見が出されました。

「学外からの評価」にあるように、多くの環境に関する賞を受賞したことは、多岐にわたる研究、教育の推進、環境コミュニケーションの成果、証明とも言えるのではないのでしょうか。このような実績と未来に希望をもたせてくれる研究、人材育成の継続に大きな期待をするとともに、上述した報告書自体の展開、活用を含め、今後ますますの環境に配慮した大学運営を進めていくことを期待しています。

学生からのコメント

持続可能な発展は難しいことのように思っていましたが、環境報告書に紹介されている本学の多様な活動が、いつか理想的な未来を実現するための一端を担っているのだと確信しました。環境報告書の存在を今まで知らなかった一学生として、より多くの人に手に取ってもらいたいと願っています。



経済学部1年
(TEDxNagoyaU 実行委員)
佐々木 梨乃



編集後記

名古屋大学環境報告書を手に取ってくださりありがとうございます。環境報告書2018より、環境安全衛生管理室長の村田静昭教授から、編集長の職を引き継ぎました。

本学は、キャンパス内に豊かな自然を有し、多くの野鳥や植物、そこに集まる虫たちを観察できます。緑あふれるキャンパス内では、名古屋大学環境方針に基づき、持続可能な発展を目指した教育と研究を推進し、最先端の研究成果による環境問題の解決と、卒業後も持続可能な社会づくりに貢献することのできる人材の輩出へ向けた努力が行われています。加えて、教育・研究活動に伴う環境負荷の低減へ向けた努力も行っており、これらの1年間の本学の環境に関する取組とその成果をまとめたものがこの環境報告書です。

2017年度には、本学の持続可能な社会への向けた取組やキャンパス整備についての活動が評価され、5つの賞を受賞(7~8 ページに掲載)することができました。

環境報告書2018は、「環境報告書編集方針」に記載した考え方で作成しています。2017年度版に対してご指摘いただいた点をできる限り改善したほか、配布方法の見直しやPR活動の強化も行いました。特に2018年度で3度目となった表紙公募については、周知用スタンド(次ページ参照)を作成し、学内の食堂やカフェ、学生が立ち寄る事務室の窓口などに設置しました。また、2018年度の新たな取組として、持続可能な開発目標(SDGs)のアイコンを1章および2章の各記事に示しています。

環境報告書の作成に当たっては、学内外からのご意見を重視しています。環境報告書に関する意見交換を2018

年度初めて3大学間で行ったほか、熊本大学の山口佳宏先生から第三者評価としてご意見をいただき、多くの示唆を得ることができました。評価者の皆様からは、学生の視点を取り入れた構成やSDGsに関する表現について好評価をいただいた一方、男女共同参画や障害者に関する記事については、位置づけの説明に乏しく唐突な印象を受けるとのご意見もありました。また、本学の環境報告書評価チームからは、環境報告書の本質である、環境パフォーマンスに関する考察が足りない点を再度指摘されています。これらの意見に対しては、2019年度へ向けて、改善の検討をすでにスタートさせています。読者の皆様にも是非、本書への忌憚ないご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

本書を通じて、本学の環境に対する姿勢を、幅広い視点に基づき、誠実に伝えることができたいと思います。また、末筆ながら、本書の作成に当たり、執筆者の皆様、有限会社メディアードの皆様をはじめ、多くの方々のご協力をいただきましたことに感謝いたします。

2018年9月

名古屋大学環境報告書 2018
編集長
林 瑠美子



名古屋大学こすもす保育園
つき組の長男と

環境報告書 編集方針

本学の構成員はもちろん、高校生や近隣地域にお住いの方など多くの方に本学の研究・教育を通じた環境に関する取組について広く知っていただくことを目標とし、作成しています。読みやすく、親しみやすいものとするため、環境報告書「編集チーム」および「評価チーム」のメンバーとして学生にも参加してもらい、若い世代の意見を反映させています。また、学内での認知度を高めるため、2016年度より学内構成員を対象とした表紙作品の公募を行っています。

本学の環境方針に沿った構成とし、環境省「環境報告ガイドライン(2012年度版)」および「環境報告書の記載事項等の手引き(第3版)」(2014年5月)に準拠して作成しています。2006年度の第1号から数えて13号目に当たります。

報告対象期間

2017年度 (2017年4月1日~2018年3月31日)

※一部に他の年度の取組も含まれます。

報告範囲

全キャンパス

環境報告書2018の考え方

読みやすく親しみのある報告書

多くの方々、特にこれから本学への進学を考える高校生に興味を持ってもらえるように、学生の研究室インタビュー、学生自らによる研究内容の紹介、学部1・2年での環境教育など、学生の視点を取り入れた記事を多く掲載しています。

総合大学らしさが伝わるもの

これまで理系の教育・研究の記事に偏りがちだったものを、総合大学ならではの文系や文理融合型の環境に関する教育・研究活動も含め幅広く紹介し、本学らしさが伝わるような記事構成としています。

幅広い環境活動を紹介

環境保全や省エネルギーに関する取組だけでなく、男女共同参画や障害学生支援など、大学の社会的責任に関する取組も、「広義」の環境活動としてとらえ、幅広い環境活動について紹介しています。

組織としての課題についても提示

環境に関する取組の良い点だけではなく、現状の課題とその改善のための取組についても掲載しています。課題を明示し再認識することは、改善へ向けた重要な一歩であると考えています。

名古屋大学の環境報告書ができるまで

本学の環境報告書は、学内の教職員、学生による編集チームで意見を出し合い、和気あいあいと作成・編集しています。

作成に興味のある方はぜひご連絡ください！ また、「こんなおもしろい授業があるよ」「環境に関する興味深い研究を知っています」など、情報もお待ちしております。

3月:作成スタート!

編集チームのみなんでアイデアを出し合います。
誰に読んでもらいたいのか?
手に取って読んでもらうには?
読みやすくするためには?
学生さんの面白いアイデアがとても助かります。

構成が決まったら...

4月下旬~:
・記事の執筆依頼
・表紙の公募開始

あなたの作品が表紙になります!! 環境報告書2018 表紙作品募集中

食堂やカフェなどにカードスタンドを設置して、公募をPR

目下、編集作業中...

4回打合せを経て以下を決定!
・トピックス記事の復活(P7~11)
・各章に扉ページの追加(P12.24.36)

2017の自己評価で意見のあった「より親しみやすいタイトルへの変更」についての議論は難航...。2018ではサブタイトルを付けてみました。

読みやすくなるよう、編集は続きます...

多くの人の想いの詰まった環境報告書の完成です。ぜひ読んでみてください!

9月下旬:無事完成!!

いただいた意見をもとに修正を加えてついに...

学内だからこそその鋭い意見も...

8月下旬:自己評価

8月中旬:他大学との意見交換

他大学の方と意見交換することで、新たな改善点が見つかります。

8月中旬:表紙決定!

毎年多数の素晴らしい作品が寄せられます。入賞作品を選出して、表彰式を行います。



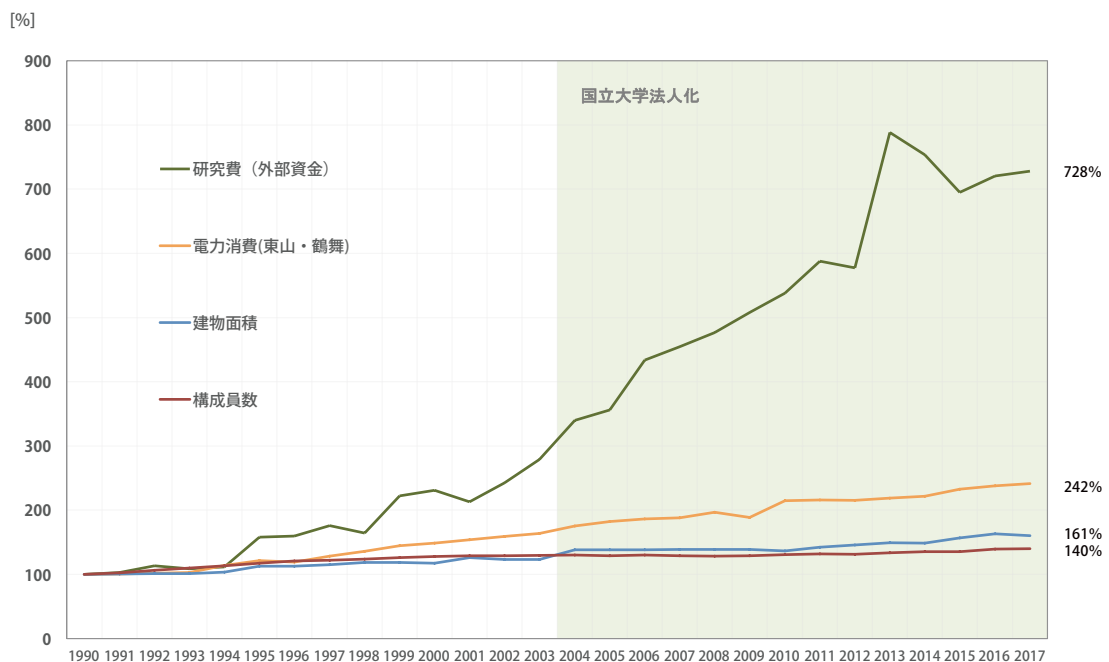
名古屋大学概要

- (1) 大学名 国立大学法人 名古屋大学
- (2) 所在地 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町
- (3) 創基 1871年
- (4) 総長 松尾 清一
- (5) 敷地面積 (2018年5月1日現在)
- | | | |
|----------|--------------------|-------------------|
| ①東山キャンパス | 愛知県名古屋市千種区不老町 | 698,137 ㎡ (借入含) |
| ②鶴舞キャンパス | 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65 | 89,137 ㎡ |
| ③大幸キャンパス | 愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20 | 48,463 ㎡ |
| ④東郷キャンパス | 愛知県愛知郡東郷町大字諸輪字畑尻94 | 283,731 ㎡ |
| ⑤豊川キャンパス | 愛知県豊川市穂ノ原3-13 | 158,001 ㎡ (借入含) |
| その他 | 宿舍や演習林など | 2,001,122 ㎡ (借入含) |
- (6) 建物延べ床面積 (2018年5月1日現在) 811,354 ㎡ (借入含)
- (7) 構成員数 (2018年5月1日現在)

		男性	女性	計
教職員 ※		2,909	2,050	4,959
学部	学部学生	6,758	2,966	9,724
	学部研究生等	216	181	397
大学院	博士前期課程	2,694	1,000	3,694
	博士後期課程	988	597	1,585
	医学博士課程	554	176	730
	専門職学位課程	52	27	79
	大学院研究生等	135	95	230
附属学校	中学校生	119	119	238
	高等学校生	169	190	359
計		14,594	7,401	21,995

※:役員を含み、非常勤職員や派遣職員は除きます。

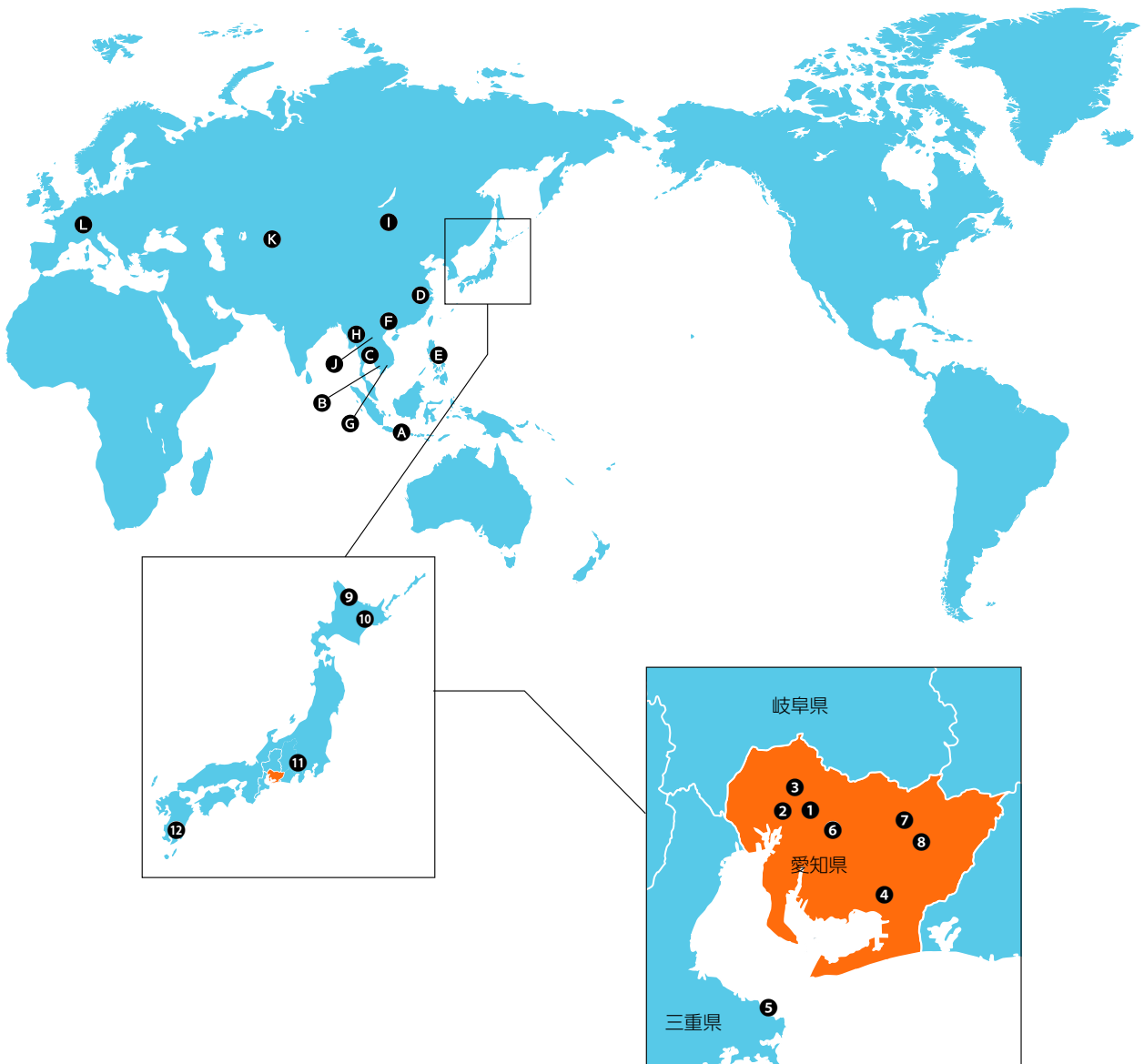
- (8) 諸指標の推移 (1990年度実績を100とした時の割合)



- (9) 名古屋大学ホームページ <http://www.nagoya-u.ac.jp/>



キャンパス所在地・海外拠点一覧



海外拠点 注 名古屋大学海外拠点認定規程に定められたもの。

- A インドネシア・日本法教育研究センター(インドネシア)
- B カンボジア・日本法教育研究センター(カンボジア)
- B カンボジアサテライトキャンパス拠点(カンボジア)
- B カンボジア事務所(カンボジア)
- C バンコク事務所(タイ)
- D 中国交流センター(中国)
- E フィリピンサテライトキャンパス拠点(フィリピン)
- F ベトナム・日本法教育研究センター(ベトナム・ハノイ)
- F ベトナムサテライトキャンパス拠点(ベトナム・ハノイ)
- G ベトナム・日本法教育研究センター(ベトナム・ホーチミン)
- H ミャンマー・日本法律研究センター(ミャンマー)
- I モンゴル・日本法教育研究センター(モンゴル)
- I フィールドリサーチセンター(モンゴル)
- I モンゴルサテライトキャンパス拠点(モンゴル)
- J ラオス・日本法教育研究センター(ラオス)
- J ラオスサテライトキャンパス拠点(ラオス)
- K ウズベキスタン・日本法教育研究センター(ウズベキスタン)
- K ウズベキスタン事務所(ウズベキスタン)
- K ウズベキスタンサテライトキャンパス拠点(ウズベキスタン)
- L ヨーロッパセンター(ドイツ)

国内主要キャンパス

- 1 東山地区
- 2 鶴舞地区
- 3 大幸地区
- 4 宇宙地球環境研究所豊川分室
- 5 理学研究科附属臨海実験所
- 6 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド
- 7 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター稲武フィールド
- 8 生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター設楽フィールド
- 9 宇宙地球環境研究所附属国際連携研究センター母子里観測所
- 10 宇宙地球環境研究所附属国際連携研究センター陸別観測所
- 11 宇宙地球環境研究所附属国際連携研究センター富士観測所
- 12 宇宙地球環境研究所附属国際連携研究センター鹿兒島観測所

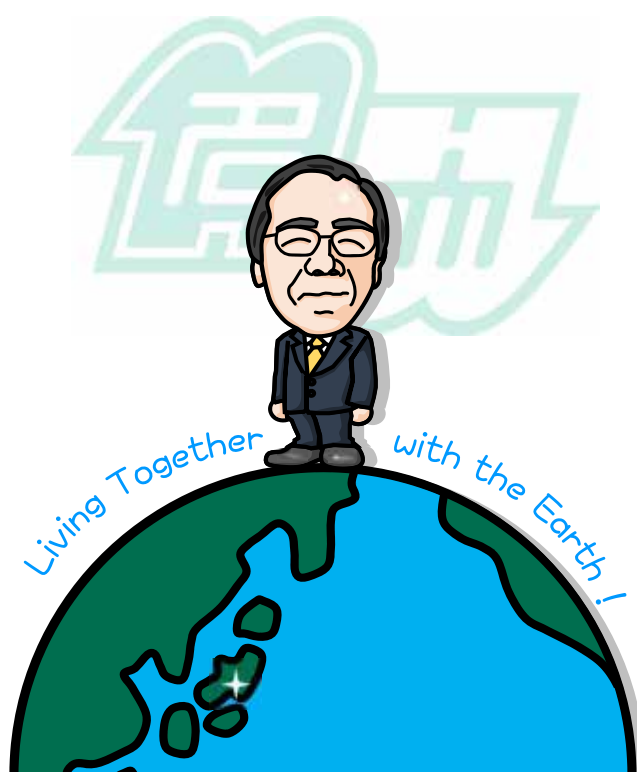
名古屋大学環境報告書 2018

編集チーム

編集長	林 瑠美子
環境安全衛生管理室 准教授	
総長補佐、環境学研究科 教授	村田 静昭
環境安全衛生管理室長	
環境安全衛生管理室 准教授	錦 見 端
施設・環境計画推進室 特任教授	田 中 英 紀
農学部・生命農学研究科 准教授	山 崎 真理子
環境学研究科 助教	奥 岡 桂次郎
生命農学研究科博士前期課程1年	岡 本 卓 哲
名大祭実行委員会(理学部3年)	佐 々 木 諒
環境サークルSong Of Earth(文学部3年)	高 見 澤 陽
環境サークルSong Of Earth(工学部2年)	宮 崎 宏 紀
環境サークルSong Of Earth(理学部2年)	劔 持 文 伸
環境サークルSong Of Earth(農学部2年)	澤 村 志 門
施設管理部 施設管理課長	白 井 隆 司
施設管理部 環境安全支援課長	山 本 直 也
施設管理部 環境安全支援課 課長補佐 (2018.3.31まで)	横 井 利 行
施設管理部 環境安全支援課 課長補佐 (2018.4.1から)	吉 川 昇 孝
施設管理部 環境安全支援課	角 谷 純 子
施設管理部 施設企画課 専門職員	加 藤 麻 記 子
施設管理部 施設管理課 施設管理主任	藤 井 美 樹
施設管理部 施設管理課 施設管理係 (2018.3.31まで)	宇 田 川 あ づ さ

評価チーム

環境安全衛生管理室 教授	富 田 賢 吾
環境学研究科 准教授	奥 貫 圭 一
全学技術センター 副技師	後 藤 光 裕
教育推進部 教育企画課 教務係長	小 栗 博 行
施設管理部 施設管理課 課長補佐	杉 本 裕 康
TED×NagoyaU実行委員会 (情報学部2年)	坂 口 和 香 奈
TED×NagoyaU実行委員会 (経済学部1年)	佐 々 木 梨 乃



名大祭実行委員会、環境サークル Song of Earthの活動についてはP34に、TED×NagoyaUの活動についてはP33に掲載しています。

表紙作品の公募について

名古屋大学環境報告書では、2016年度から環境報告書をより多くの人に読んでいただくためのPR活動の一環として、本学の学生・教職員を対象とし表紙作品を公募しています。

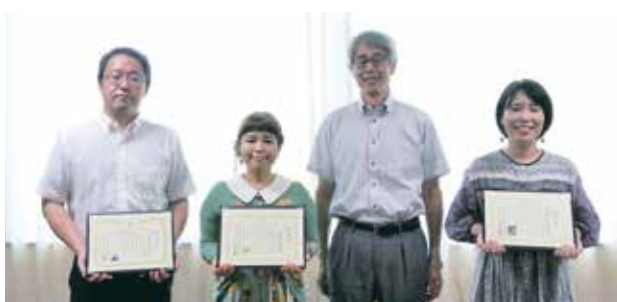
2018年度においても身近な環境の豊かさに気付かされたり、環境意識を呼びかけるアプローチを考えるヒントを得たりと、バラエティに富んだ多数の素晴らしい作品の応募があり、その中から入賞作品を選ばせていただきました。この表紙を見て報告書を手にとった方が、名古屋大学を身近に感じ、教育・研究などを通じたさまざまな環境活動に興味をもっていただけるのではないかと期待を込めています。

今回ご応募いただいた皆様と、大学生協をはじめ公募の周知にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

各入賞作品は表紙、P57、裏表紙に掲載しています。また、入賞されなかった作品も素晴らしい作品ばかりです。2018年度末まで環境報告書ホームページで紹介していますので、ぜひご覧ください。



2018年8月に上月正博理事(環境安全担当)から表彰状の授与を行い、入賞者に作品についてお話を伺いました



左から 富田さん、若原さん、上月理事、佐々木さん

名古屋大学環境報告書2018表紙応募作品の紹介

http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/e_rpt_2018entryworks.html

作品コンセプト



(表紙 掲載)

【大賞】 企画部(職員)
若原 静映さん

緑溢れる自然豊かな本学を大切にしたい、本学の環境への取組が世界の環境保全につながっていることを表現したい、これらの想いを根底に、豊田講堂と周囲の緑、中央図書館前の緑、青空で本学の自然の豊かさを表現しました。

四隅には、本学に咲くキンシバイと赤い実のコトネアスター、本学の環境への取組が世界をも豊かに導くことをイメージした地球、その取組や想いが未来へとつながっていくよう、祈りをリボンに込めて描きました。



(P57 掲載)

【優秀賞】 環境安全衛生管理室(教授)
富田 賢吾さん

楽しさあふれる教育、研究を「地球とともに」。そんなイメージをやわらかめのタッチで表現できたらいいな、と思いイラストにしてみました。



(裏表紙 掲載)

【優秀賞】 生命農学研究科(大学院生)
佐々木 明日香さん

名古屋大学周辺で観察される生き物と豊田講堂をモチーフに、カラフルな色合いで、生き物たちが歌い、舞う、美しい自然環境を表現しました。



発行 / 2018年9月
 国立大学法人 名古屋大学
 編集 / 名古屋大学環境報告書2018 編集チーム
 編集協力 / (有)メディアード
 お問い合わせ先 / 施設管理部 施設管理課
 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町
 TEL : 052-789-2137
 FAX : 052-789-2150
 E-mail : sis-kan@adm.nagoya-u.ac.jp
http://web-honbu.jimu.nagoya-u.ac.jp/fmd/06other/guideline/e_rpt.html

次回発行予定 / 2019年9月



本書掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
 本冊子は再生紙を使用しています。

